

# 第1回望ましい教育環境あり方検討委員会会議録

平成28年10月21日金曜日 午後3時から  
九戸村役場 第2会議室

## 出席者

岩手大学教育学部	教授	田代高章
九戸村議会	議長	上村昇
九戸村議会	総務教育常任委員長	中村國夫
九戸中学校	P T A代表	尾友一雄
戸田小学校	P T A代表	橋本健一
山根小学校	P T A代表	田澤秀行
伊保内小学校	P T A代表	斉藤真一郎
長興寺小学校	P T A代表	中野剛
江刺家小学校	P T A代表	七戸真由美
戸田保育園	保護者会代表	觸澤英之
伊保内保育園	保護者会代表	吉田一幸
九戸中学校	学校評議員代表	上村陸巳
山根小学校	学校評議員代表	舘孝一
伊保内小学校	学校評議員代表	小野寺エネ
九戸中学校	校長	吉田竜二郎
長興寺小学校	校長	門ノ沢邦夫
ひめほたるこども園	園長	小井田まき子

## 欠席者

ひめほたるこども園	保護者会代表	市橋謙二
戸田小学校	学校評議員代表	村田勝義
長興寺小学校	学校評議員代表	高崎徳雄
江刺家小学校	学校評議員代表	滝谷博
ひめほたるこども園	評議員代表	石川ツエ

## 事務局

教育長	漆原一三
教育次長	野辺地実
次長補佐	川原憲彦
指導主事	柳原政輝
主査	岩崎浩美

## 【開会】

事務局

定刻になりましたので、会議を進めさせていただきます。これから第1回望ましい教育環境ありかた検討委員会を始めます。初めに漆原教育長より御挨拶を申し上げます。

## 【教育長あいさつ】

漆原教育長

大変忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。今週はうれしいことが続いております。一つは伊保内高等学校の神楽が県の優秀賞第一席に選ばれて、来年度の全国の校文祭りで発表されることになりました。それから今日の新聞だったでしょうか。アイルランドに行く子どもたちの生き生きとした姿が新聞で報道されていました。本当にこれもみなさんのおかげと存じております。希望郷いわて国体では小学校、中学校、高校生、そして村民の皆様を支えられて大成功に終わったものと考えております。子どもたちの応援する様子が新聞で報道されたわけですが、その新聞の記事の内容から子どもたちの笑顔と元気と迫力が伝わってきてその場にいるような感じがしたことでございます。今日お集まりいただきました委員会は本村の子どもたちが生涯にわたって学び続ける力をはぐくむことと、これから野社会を生き抜いていく子どもたちに今まで以上により良い環境を提供するために、皆さんには子どもたちの過去そして現在、未来を考えて望ましい方向性を支援していただくということでお集まりいただきました。具体的な依頼内容につきましては、このあとお願いするということにします。ご存知のように子どもたちを取り巻く社会というのは、情報化そしてグローバル化、少子高齢化等なかなか先行きが見えない状況でありますし、そのために子どもたち自らがこれからの世の中で問題と課題の答えを見出していかなければならない。そうゆう時代だと言われております。何を学んだか、何ができるのか、そして学んだことと出来ることをどう生かしていくのか、思考力、判断力、表現力が求められ、そしてさらには学びをこれからの社会と世界とどう繋げていくのか。学び続ける力、人間性がますます求められてくると言われ、現在次期学習指導要領の改訂が精力的に進められています。また小中一貫制度の制定等子どもたちの学びの環境は大きく変わりつつあります。本村の子どもたちの状況ですけれども、子どもたちの減少、数の減少によりまして小規模校化そして極小規模校化が進んでいる中で、地域の教育力を生かして、各学校の先生方の熱意と総意と誠意によって児童法の改正が図られ子どもたちの学習活動が展開されております。一方、ご存知のように小規模校化する学級の人数によって、多様な学習形態の体制や集団での学習に制約されることも多くなっております。また先生方の教職員の組織体制等の影響が出てきております。学校教育というのは集団の中で多様な考え方に子どもたちが触れて、そしてお互いに認め合い協力しあい切磋琢磨しながら子どもたちが思考力を高め判断力を付け、総合力、問題解決能力を育まなければならないと考えております。その中で当然、社会性等を身につけていくことになります。また、各学校で行われております個別学習そして一斉学習。ここもますます求められてくるだろうと思っておりますけれども、協働学習などとバランス良く行われて子どもたちの学習活動が充実していかなければならないと思っております。そのためには子どもたちの学びを保証するという視点から、適正また本村の特質であります、中学校との連協を大切に教育制度の広角的な運用に含めた、本村の

子どもたちにとって一番望ましい教育環境を考えていくことが必要であると考えております。委員の皆様にはどうぞ地域の教育力を生かし、そして子どもたちの将来を見据えたより望ましい教育環境のあり方について、幅広くそして深いご意見をいただくことをお願いするとともに、本委員会を承認いただくことに感謝申し上げて開会にあたっての挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

### 【委員長・副委員長の決定】

事務局

ありがとうございました。それでは次第4、委員長、副委員長の決定ということでございますが、設置要綱第5条によりまして委員長、副委員長を互選により決定したいと思いますが、どのように取り決めたらよろしいでしょうか。

委員

事務局案はございますか。

事務局

はい。事務局案ということでございますがよろしいでしょうか。

全員

はい。

事務局

事務局といたしましては、委員長に岩手大学の田代高章様をお願いしたいと思っております。そして副委員長に九戸中学校の吉田竜二郎様をお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

全員

異議なし。

事務局

ありがとうございます。それでは承認いただいたということで、委員長に岩手大学教授の田代様。副委員長に九戸中学校校長の吉田様をお願いしたいと思います。それでは次に次第5、諮問書の手交ということで教育長から委員長をお願いしたいと思います。田代委員長は委員長席にお願いたします。

## 【諮問書手交】

漆原教育長

よろしくお願ひいたします。 ー諮問書を手交ー (教育長より田代委員長へ)

事務局

ありがとうございました。それではこれより田代委員長に会の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

## 【諮問の説明】

委員長

ただいま委員長に選任していただいた岩手大学の田代でございます。改めてよろしくお願ひいたします。ただ今、漆原教育長様から諮問をいただきました。本日はこの後諮問の内容も含めて、次第にあります報告・協議に移りながら約2時間弱くらいの時間で終了を予定しておりますので、進行の方よろしくご協力お願ひいたします。それでは最初に諮問の説明を事務局からお願ひいたします。

事務局

それではお手元の資料のNo.2をご覧くださいと思います。

本日の諮問内容がここにありますので、1枚めくっていただきまして2枚目をご覧くださいと思います。諮問の方を読み上げていきたいと思います。

九戸村教育委員会は、新九戸村総合発展計画に掲げる将来像「小さくても活力と笑顔溢れるしあわせの郷九戸村」を受け、将来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ、心豊かに「生きる力」を身に付けられるよう小中（高）連携した学力向上や地域全体で子どもたちを育てる学校教育の充実に努めているところです。

現在、私たちを取り巻く社会は、国際化や情報化、少子高齢化が急激に進み、また、子どもたちの教育環境は、学習指導要領の改正や小中一貫教育など、国の教育制度改革の推進により大きく変化する状況にあります。

このような中、本村は児童数の減少による学校規模、学級編制の課題がますます顕在化し、子どもたちの望ましい教育環境への影響が強く懸念されているところであり、「生きる力」を身に付ける学校教育環境のあり方が喫緊の課題となっています。これらの諸課題に対応した学校教育の充実を図るため、下記の点について、「望ましい教育環境のあり方検討委員会」設置要綱第2条の規定により諮問します。

「将来を担う子どもたちの望ましい教育環境のあり方について」ということで、以下の4点についてご意見を伺いたくお願ひするものです。1点目としまして「生きる力」を身に付けた子どもたちの将来像について。2点目としまして、九戸村立小学校の適正規模、適正配置について。3点目としまして、九戸村学校教育の特質を生かした小中連携教育について。4、これらに伴う様々な課題の改善について。という4点でございます。よろしくお願ひいたします。

## 【委員会の運営について】

委員長

ありがとうございました。各自の皆さんのお手元にあると思いますけども以下の4点を中心に今回は進めていくこととなります。どうぞ協力の方をよろしくお願いいたします。それでは続きまして検討委員会の運営について、次第6の(1)検討委員会の運営についてお願いします。

事務局

会議議事録の公開について最初に説明させていただきます。本検討会は原則公開により開催し、傍聴を認めることとしております。傍聴は九戸村教育委員会の傍聴人規則を準用して行います。会議録は原則公開としまして委員の皆様が発言等をホームページでお知らせすることとします。その際に検討委員の名前は公開せず、検討委員として発言内容を公開することとします。公開する前に発言内容等を掲示した会議録を皆様にご覧いただいたうえで確認の上ホームページ等に記載したいと考えています。

次に検討委員会の日程ということでございますが、資料3ですけれども、1, 2は後でお目通し願いますが、3の検討委員会と検討内容の欄の中に日程等若干記載しております。まず今日が第1回目の会議を開きまして、これ以降8回程度を予定しております。そして29年の8月に答申を出す予定で会議を開催したいと考えております。それで皆さまから出された答申を元にして、29年11月に基本計画を教育委員会で作成し、地域の方々に説明していくこととなります。基本計画が作成になった後も皆さまにおかれましては、基本計画について3回程度審議いただきたいと考えております。1枚めくってもらいまして裏側ですけども、村民の周知徹底ということで先ほどもお話ししましたが、ホームページあるいは広報等で会議の内容についてはお知らせしていきたいと考えております。

次に(2)の検討委員会審議内容等の計画一覧ということで、先ほど話したとおり8回程度会議を予定はしております。次は11月を予定しているところでございます。これにつきましては日程が確定しだいお知らせするなかたちにしたいと思っております。この間その会議だけでなく、もし必要があれば先進地の小学校を見たいとか、いろんな事例をみたい等のご要望をいただければ視察についても考えていきたいと考えております。大変お忙しいところだとは思いますが、極力出席いただきますようご配慮をお願いいたします。

次に資料No.4ですけども、4につきましてはこの後担当の方から説明させていただきます。あと資料No.5ですけども、法令等からみた適正規模についてということで資料No.6と一緒にですけども、文部科学省で出しております、適正配置等の手引ということでさまざまな内容をまとめたものでございます。その中に1ページめくっていただくと、学校適正規模の背景と位置づけということで、現状等を分析したもの等が記載となっております。そして2章ということで、適正規模・適正配置について記載となっております。その中で6ページを見ていただくと適正規模・適正配置ということで、小学校においては12学級以上18学級以下を標準とする文科省の考え方が表示してあります。その他小規模校の問題点等をいろいろ並べた形になっておりますので、後でご覧になっていただきたいと思います。

委員長

次第の報告・協議6(1)の説明を事務局から説明いただきました。具体的には、資料いくつかありましたが、No.2は先ほど説明がありましたので確認いただきたいと思います。それから会議の議事録公開ということでの説明がありました。基本的にはホームページ等で公開していくことで、それはある程度常識的な判断になりますけども、氏名が公表されるということはありませんので、各位の皆さんの発言内容が整理されて公表されることについては予めご了解ください。よろしくお願いいたします。それからあとは資料No.3を中心に、今後の委員会の日程等について説明がございました。それで皆さん方にはこれから1年にわたって8回程度の委員会を開催があることを御承知願いたいと思います。最終的には来年29年の8月、ここで今回の諮問に対する回答としての答申を本委員会として取りまとめて提出する日程になっております。1年の中で8回ですからけっこう数が多いと思いますけども、各位の負担のないところでご参加をいただければと思います。

そして29年の8月に答申が出されたのちに、同年の11月には基本計画案が作成されるということで、その後に開かれる準備説明会等々ご協力いただき、場合によってはご意見をいただく流れになっております。このような流れについてご理解をいただければと思います。おもに我々が協議しなければならないのは、この九戸村の将来の子どもたち、これから生きていく上でどのような学校教育環境が望ましいか。その一環としてこの後で説明があるかと思えますけども、九戸村の教育現実と言いますか、子どもの実態に即してどのような教育環境。具体的に言えば学校の適正規模にふさわしい、どのようなあり方が求められるか。学校自体、小中学校のあり方、この部分を取りまとめていくのが中心な役割となると思います。それによって今後各位の皆さんからご意見を頂戴することになります。まず前提についてしっかりとおさえていただければと思います。

今までのことで何か確認しておきたいこと、あるいは事務局の方にお尋ねしたいということがあれば、この場で遠慮なくご質問なり、ご意見を頂いた方がよろしいかと思いますがいかがでしょうか。まずは委員会の進行、日程に関連してということで、ご質問、ご意見いただければと思いますけども。もちろん今浮かばないということであれば最後、小中学校の現状について説明をいただいたあとの6の(3)の協議のところでもご意見をいただければなと思っております。

尾友委員

訂正を聞き逃したかもしれませんが、資料No.3の総合教育会議平成28年8月とあるが、これは実施したのですか。

事務局

これは8月に開催しております。

委員長

時系列的な前後があるように見受けられますので、分からないところがあるかもしれませんが、この総合教育会議平成28年8月は、今年度8月ですのですすで開催されたものが、参考というかたちでこの枠の中で示されております。ご理解いただきたいなと思いますが。どうぞ皆さんよろしいですか。

全員 「はい」

委員長

他にはいかがでしょうか。もしまた質問あるいはご意見等出てきた場合には、最後の協議のところで伺いしたいと思います。それでは次に進行させていただきます。6 報告協議の（2）九戸村の小中学校の現状についてということで、資料番号の 4、5、6 に関わることの 2 ということになろうかと思えます。まず 4 のところが中心になろうかと思えますが、それでは事務局から資料の方の説明をお願いします。

### 【九戸村の小中学校の現状について】

事務局

児童生徒数の推移について資料 4 で説明させていただきます。資料 4 の 1 ページ児童数・生徒数の推移を見ていただきますと、このグラフの中では昭和 35 年の 1854 名をピークに右はじの 34 年のところでは 220 名というふうに推移されております。見ていただきまして、2 ページ目の「九戸村人口ビジョン」から見る年少人口の推移ということで、2010 年から 2015 年、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で 7 1 4～6 2 9 と推移されて、年々減少の傾向になっております。3 ページ目に行きますと、一番下の岩手県人口ビジョンを勘案して、昨年の 2015 年、平成 27 年から 15 年後の 2030 年になりますと 647 名から 553 名と推移されております。このほかに転出等があった場合また転入等があった場合、この数値が変わってくる状況にありますけれども年々減少の傾向に依然変わりはありません。次の 4 ページ目に入ります。今後の入学者数と各小中学校の児童数と生徒数について表にしました。一番上の平成 19 年度入学者数は全部で、43 名。平成 29 年来年度小中学校に入学する入学者数は 33 名、以下年齢ご覧のとおりになっておりますが、その下が各小中学校の全校生徒数になります。今年度 28 年度伊保内小中学校は全校生徒で 115 人。長興寺小中学校で 43、戸田 59、山根 20、江刺家 36 と合計で 273 名となっておりますが、6 年後の平成 34 年度、右はじの方に行きますと 5 つの小中学校のすべての児童数が 220 名と減っております。下の小中学校については、上の児童数が小中学校になってから 3 学年すべての数字ですけれども、1 学年が平成 40 年に行きますと 107 名。だいたい 1 学年が 3 5、3 6 人の推移になっております。次に 5 ページ目をご覧ください、各小中学校の新一年生の男女のバランスを見ていただくと、平成 30 年の長興寺小中学校は男子が 5 人。女子が 0。江刺家小中学校は男子 5 人に対して女子が 2 名などとバランスが悪いが、小中学校の合計数で行くとあまり偏らないで、良いバランスになっています。次の 6 ページ目ですが、今年度からの各小中学校のクラス編成とか合計の人数になっております。7 ページ目の平成 29 年度になりますと、長興寺小中学校が複式の 1 クラス、戸田が 2 つの複式で、8 ページ目に行きますと、平成 30 年からは伊保内小中学校以外がすべて複式の学級で、8 ページ、9 ページ、10 ページ、11 ページとすべて複式の小中学校のようになっております。13 ページ目の平成 28 年度の近隣市町村の小中学校数になりますが、これを見ていただくと二戸市の小中学校は浄法寺も含めて小中学校の数は 8 校。児童数は二戸市の小中学校の児童数 1234 人。久慈市は山形町を含めて 15 校。小中学校の児童数すべてで 1830 人。下にいきますと一戸町は 6 校の 488 名。軽米町は小中学校が 3 校の 393 名です。洋野町は 8 校

で 685 名。岩手県には 4 つ村があるが、二戸、久慈管内にこの 4 つの村があります。現状はご覧のとおり九戸村、野田村、普代村、田野畑村が岩手県の村のすべての数ですけれども、九戸村の小学校は 5 校で 268 名。野田村、普代村、田野畑村の小学校は、一校でご覧のとおり的人数となっております。子どもたちの現状の数については以上になります。良くご覧いただきたいと思ます。よろしくお願ひします。

## 【協議】

委員長

ありがとうございます。まずは一つ生徒数の推移についての説明がございました。ここで資料をご覧になる時間が必要だと思いますので、ちょっと見ていただいて、そのあと質問あるいはご意見をいただきます。とくに見方がわからないとか、これは何を意味するのかなど質問が出ると思うので、5 分くらい取ります。各委員の皆さんで、資料の方をご覧いただいて今後の児童生徒数が減少傾向にあること、各小学校、中学校は 1 校ですけれどもいずれ減少、場合によっては小学校で複式学級が増えていくということ。大きな傾向は何えるかと思いますが、細かい部分もあるかもしれませんので、時間をとりたいたと思います。ここの会議室の時計で 42 分までとします。資料をご覧になってください。

委員長

それでは時間ですので、資料 4 の方をご覧いただいたうえで質問があればお願いいたします。

委員長

それでは私の方から確認させてください。資料 4 の 4 ページ在校児童生徒数 28 年度の小学校。伊保内から江刺家まで 273 名とありますが、最後の 13 ページでは、九戸の小学校の 5 校全体で 268 名となっていて、273 名との間に 5 名のずれがありますが、おそらく転入転出がその間あつての数字と思いますが、そう理解してよろしいですか。

事務局

はい。これは薬事関係職員録からなので。

委員長

そうすると 3 月末ぐらいですか。

事務局

はい。

事務局

最新を載せているのは 4 ページと理解すればよろしいですか。



事務局

はい、6ページは9月29日現在のものです。これが最新の数字です。

委員長

273名が現在、小学校5校の合計ということですね。あと聞き洩らしたかもしれないが、13ページの学級数で伊保内小学校が8学級とあるが、6ページの方には6学級となっている。伊保内小学校の8学級というのは1、2、3、4、5、6のどこが2学級となっているのですか。

委員

支援学級が2クラスあります。普通学級が6学級。支援学級が2クラスできたので、8学級というかたちです。

委員長

ぱっと見だと混乱するものですから、6ページの右側最後の項目に、学級数が細かく乗っておりますので、本来は学級数が入っていると分かりやすかったと思います。

その場合、山根小学校も同じような形と考えればよろしいですか。

事務局

はい

委員長

合計的、数字のデータということではご理解をいただけたと思います。今いる子どもたちの数が少ないというのが現実かなと思います。ほかに委員の皆さんからいかがですか。

委員

このように人数が減っていくなかで、ただ減っていくだけでは済まないと思うし、今でさえも村全体の保護者の皆さんから言われるのは、子供が少なくなっており、クラブ（スポ小）、勉強と相手が少ないことからどうにかしてほしいとの声が、最近、耳には入ってきます。村としてはまだ考えているのか、いないのか分からないが、いずれこれだけ人数が減ってくると、相手がいなくスポーツも勉強でもできないと思うので。その辺はどのように考えていったらいいのか先生（委員長）からお聞きしたい。

委員長

諮問文のところにも入っていますが、子どもたちの数が少なくなればなるほど、もちろん中学校の部活が成立しにくくなる現象はあるでしょうし、学習面でも多様な考え方を付き合わせながら学んでいくことが求められるというのが今日の状況だろうと思います。一人で学習するだけではなくて、やはり多様な物の見方、考え方であるとか理解の仕方がいろんな考え方があるということ子どもたちがお互いに学習し合う中で学び合っていく。そこからいろんなものを吸収し合っていくということが必要です。そうゆう大前提での学習の効果。あるいは人間形成におけるさ

まざまな社会性の形成。そういう所を見た場合でも、一定程度の数の子どもたちがいる必要があると、大きくは言えるかと思えます。そうすると今この現状ということになると確かに厳しいと。数が学校によっては少なすぎて、いかに複式学級をつくったとしてもそこに本当の意味で理解を深めていく、あるいは多様な考え方価値観を持つ仲間と関わり合いながら社会性を築いていくという点においても、やはり厳しいところがあると思えます。そのあたりのところを学校現場から園長、校長先生3人の方が参加していただいておりますので、率直な希望を持っておられることがあればぜひお聞きしたいと思えます。その前に〇〇委員。

#### 委員

今回、現在のPTA会長さん方がお並びで、現在子育ての真っ最中ですが、ただ村がこの小学校の統廃合にまるで今初めて取り組んだかのように、これだけを見ますと感じてしまうのではないかと思います。しかし、実際には平成20年の4月に宇堂口小学校と戸田小学校が統合して、8年目ということでしょうか。ですから10年くらい前からPTAを交えての小学校の統廃合の動きとか、検討会のようなものも以前にありまして、その時に実際に村が掲げていたのは最初3校にまとめて、その後1校にまとめるという段階的な統廃合の話だったと思えます。でも実際にできたのは宇堂口小学校と戸田小学校の統合だけとなりました。そういった経緯は何も、誰もわからないと思うのでそういった経緯を、なぜその時話が途中で消えてしまったのか、戸田小学校、宇堂口小学校の統合だけで終わってしまったのか、また、3校そして1校というその時の計画はどういうものだったのかなど、できれば知りたいと思えます。そういう検討もあった上で現在の状況がこのようになっているということは知ってもいいという気はします。これだけですと九戸村は今まで何もやってこなかったようにも見えますので。前回の経緯の資料といってもないのかも知れませんが、簡単な説明くらいはあってもいいと思えます。

#### 委員長

ありがとうございます。九戸村では過去にも統合が実際に行われ、その時の計画があったという話で、私もあまりその時の事情は詳しくないですが、もし事務局の方から今答えられる範囲のものがあれば、あるいはもし今すぐということがかなわないのであれば次回の委員会までに資料を準備いただいて、経緯について予め委員の皆さんに共有いただきながら、さらに今回どうゆうかたちで今後の学校教育環境のあり方を検討するのか議論していった方がよろしいかなど。

#### 委員

今回例えばここでせっかくだした物が前回と同じような理由で、全部却下されて結局できませんでしたということになってはもともこもない。何が障害だったとか、誰が反対したのかとか、そういったことがもし分かれば計画を立てる際にも参考になると思うが。

#### 委員長

ありがとうございます。そのあたりの経緯ということで、ご存知の委員の皆さんが居られるかもしれないし、私のようにわからないというケースもありますので。そのあたりもし何か資料的なものがあれば事務局の方から。

事務局

特段ですねこちらの方で資料等は用意しておりませんが、平成19年の冬ごろから宇堂口小学校のPTAの方から、そろそろ入学者がなく、あと数年すると卒業生がいなくなることから統合を検討したいと、その時始めて話が持ち上がったようです。検討の結果20年の4月から統合することになりました。同じ時期に話も聞きましたが、途中で私担当が変わったもので立ち消えになった形で聞いていたので、その結果これから調べて次回に何かしら資料等あれば提供したいと思います。

その時に統合をどうするかの話も出たはずですので、それら資料を見つけてまた皆さんにご提供したいと思います。それ以降は、いずれ統合の話が地元、保護者の方から話が出たら考えるということで、そのまま現状になっていると聞いていました。現在わかることは以上でございます。が次の委員会で知らせたいと思います。それまでお待ちください。よろしく申し上げます。

委員長

ということで各委員の皆さんよろしいですか。詳しい経緯等々事務局で資料があれば。

事務局

追加で先ほど結局この会議で出した結果と村の実際の実行が伴わないかなというような話でしたが、それにつきましたも今皆さんにお渡ししてあります総合発展計画の後期計画の61ページの方に、望ましい教育環境の整備ということで取り組む姿勢は全面的に押し出しておりますので、極力意見に沿った形で整備を進めたいと考えております。

委員長

ありがとうございます。基本計画は本年度以降の32年度までの取組のということですが、その前提の過去10年間の動きもある程度踏まえながら、そこに継続性があるのか、あるいは断続的なものがあるのか。そういったところは情報として考えながら検討する必要がある気もしますので、先ほど資料提出の要望をいただきましたので、次回事務局でまとめられた過去の資料を可能な範囲で十分かなと思いますが、少しお出しただければと思います。そこは事務局の方で準備をお願いします。関連することでもかまいませんが、それ以外のことでなにかありませんか。

委員

13ページに4つの村の説明がありました。その中で野田村、普代村、田野畑村は1村に1校となっているが、いつから1校になったのか参考までに調べていただきたい。また、もし分かれば経過、どのような形でなされたのか、その辺も参考とさせていただきたいが。

委員長

資料は13ページ野田村、普代村、田野畑村の最後右側の末尾のところと同じような自治体で1校の小学校ですから、統廃合の結果1校になったことは重々わかるのですがそのあたりどのような経緯でということと、ある程度その時の実情等わかる範囲で。他の自治体の情報にはなりま

すが、おそらく九戸村でも非常に参考になると思うので、事務局の方で調査をいただいて資料提示いただけると助かります。よろしくお願いいたします。

他にはいかがでしょうか。とくに私からご指名いたしませんけども、せっかくの委員会ですからなるべくお一人お一つくらいは発言いただいたほうがよろしいのかなど。強制ではありませんけども、ぜひ遠慮なくご意見いただければと思います。まだ初回ですので情報を集めながら、これから先考えていろいろご意見いただく機会が増えてくると思いますけども、現在の資料提示の段階でもし何かあればよろしくお願いいたします。

あと先ほど二つの資料を次回に追加で提示というご意見をいただきました。その他に今日の資料だけではちょっと理解が不足するとかですね、あるいはもう少しこうゆう資料がほしいということがあれば、その部分につきましても、出来れば今の段階で遠慮なく言っていただいても方がよろしいかと思います。おそらく事務局も準備の都合というのがありますので、早い段階でこうゆう資料がほしいというのが今の時点であれば。

#### 委員

資料4にある各学校の予測される児童数・生徒数の推移を一般の家、親さんたちにも見せたほうが良いと思います。教育委員会で資料を作成し各学校に渡していただて。ただ渡されても食いつく人、食いつかない人もいると思うので、渡すということはもう学校数とかをどうするのかの話しかないので、そこをアンケートみたいな感じで、全村でやるべきと思います。

#### 委員長

ありがとうございます。九戸村内の5校の1年生から6年生の子どもたちが28年度から一応34年度までの推移。予測数値にはなりますが、こうゆう形で推移するという見通しであることを、各学校の方でもPTAの皆さん方に周知徹底をしていくと。情報共有していきながら、そこで場合によっては学校ごとにPTAさんでまとめていただいたり、せっかくPTAの皆さんも委員に入っていますから学校でのご意見等々ある程度集約してこの場に持ってきていただけるのもありがたい話かなど。そうゆう意味では事務局の方としてはこの資料に関しての提示。あとで学校園長3人の皆さんおられますので、そのあたりの見通しはどうかお聞きはしたいと思いますが、事務局の方いかがですか。

#### 事務局

資料の公表については一切構わないと思います。広報等に委員会で議論を情報としてお伝えしたいと思いますが、資料全部載せることは無理ですけど例えば4ページの今後の推移・見込については情報提供できると思います。今後の予定として資料3にもありますけども、住民の考え方も聞きたいというような希望もあれば、情報提供したうえでアンケートを実施するのも一つの手だと考えております。ただ今学校から直接渡されても、学校側としても説明が難しいと思いますので、その辺については委員会で議論されたことを広報等に記載するのもいいのかなど考えているところです。

#### 委員長

一応ホームページ公開というのがありますが、資料をそこに添付するのであれば4ページレベルでの資料はホームページ公開も可能ということですか。

事務局

これについては問題ないと思います。

委員長

学校園長代表委員の皆さんにもおたずねしてみたいと思いますが、PTAの方でもこういう資料をという話がありました。さまざまな扱い方とか出す時期であるとか、アンケートをとる場合にまた改めてとかいろいろな方法が考えられますが、現時点で学校の状況を考えた場合にちょっとそのあたりどうだろうかということをお聞かせいただければと思いますが、〇〇委員の方からちょっとお答えいただけますか。

委員

委員さんから話をいただいた件について私も実はそもそも資料を広報等に掲載をして、保護者の皆さんにお知らせするにはどうしたらいいのかを考えていたのですが、先に数字が出てしまうと方向論としてのそもそもこの会議が統合ありきで、いつ統合するのとかの方法論の話に走ってってしまうのではないかと考えています。最初に日程が出されていますが、今回諮問に関わって、おそらくはそこにも話はもちろん出てくるのだけれども、最初はいわゆる九戸村の子どもたちの将来像ということで、お集まりいただいた皆さんが各学校団体に学んでいるのだけれども、将来の九戸村を支えてもらう宝物としての子どもたちを、どのように育ててほしいかについて意見を出し合いながらある程度の子どもたちの将来像についてのイメージを共有したうえで、だとするとそれに適切な学校規模なり、学習環境をどのように整えるかっていうふうなところでの人数と、順番を伝えていくと、例えば人数の資料を出した場合についても、ここの会議の中で各地域やいろんな代表の方々が話し合いをして、将来像をなんとなく共有したいなど。そうしたときに保護者の皆さんにお伝えすると、なんか数字だけが歩いていくのは怖い部分があるので、そうすると出していた資料ですと来年の2月にアンケート調査というのがあるので、このアンケートの中身は将来像が中心なのかと思いますが、話の具合によって2段階でのお知らせということにしたらいいのかなと思います。ただこの会議が原則公開なのでさまざまなお考えの方が村内にいらっしゃると思いますので、いろんなお話を直接耳にするのは委員さん個人だと思います。その時にこのような段取りで進めているから、「そう言う話も参考にして会議でも話をしてくるからね」と言うふうにお話しいただき、いろんな情報をここで共有しながら進んでいくという段取りでやってもいいのかと考えています。

委員長

ありがとうございます。ではもう一方の、〇〇委員いかがですか。

委員

結論かいくと今の意見に近いものを感じます。数字が出る、たとえば小学校、児童数がさらに

減っていくとどうしても統合の話だけにいきがちになります。

複式という立場から話しますが、もちろん単式よりは大変です。しかし大変な中でも同じような力を付けさせるため指導をがんばるのですが、授業といっても机で学習する場面が多い授業があれば、体育等集団の力が必要な場面もあるわけです。学校内授業においても集団で行動させることはあるわけで、どの角度から見ていくかってことを当然それぞれの親御さん、我々も見る角度を合わせるためにも、資料を出す時には多少なりともうまく伝えるべきではないか。あとホームページという話もありましたけれども、実際このホームページをどれだけ見るのか。中身をどう伝えるのかを考えた方がいいのかなと。

委員長

ありがとうございます。〇〇委員さんいかがですか。

委員

まだ子育て最中のお母さんさんたちで、そこまではせっぱ詰まった状態にはなく、就学前の保護者会のなかには、「うちの学校は何人だよ」との声が聞こえます。わたしも運動会、発表会と招待をいただくが、子ども達が少ないのは実感しています。

委員長

ありがとうございます。学校からということで委員の御三方のお話を伺いました。

今回のこれからの委員会の流れについて先ほど説明をいただいておりますが、次回以降のところ子どもたちの将来像を考えていくという方向性がこの委員会には求められているのかなと思います。確かに児童数生徒数が減っていけば統廃合するのか、あるいは支援するのも当然必要なのですが、ただ数が先走ってしまっただけで統廃合の議論に移るということではなくて、これからこの九戸の子どもたちがどうゆう力を身につけていけばいいのか。これからの社会に向けてつけるべき力は何だろう。そうゆうことをまず考えていくことの方が大切かなと思います。それに応じて教育内容とか教育方法とかは決まってくるので、その所をまずはっきりさせておいて、そうゆう力を付けるためにはどのような環境がふさわしいのか。というような流れでその時初めて、この学級規模だと厳しいとか、この学校規模だと厳しいとか、それを具体的な数値にある程度即して、照らし合わせて、我々が議論しながら統合が良いのかあるいは現状で何とか維持できるのか、あるいはさまざまな統合の形態も様々あります。今回も小中連携とか一貫とか。似たようで実は制度的には異なるようなものも含まれていると思います。どれがこれからの子どもたちが将来を生きていく上で、力を付けていく上でふさわしい環境なのかというところを、将来的な数値のデータも合わせてこれからの九戸村の学校環境を考える。そういった一つの手続きを踏んで行った方が、おそらく村民の皆さんの理解もしていただきやすいと考えるところです。事務局の方とも協議をしながら、今後どの程度、どの時期にアンケートを実施するのか、また、その際に合わせて学級数、人口動態の将来推計についても参考資料としてお付けしながら考えることも可能ではあると思います。そのあたりのところは事務局と協議しながら、委員さんがお話になったことは大事なところではあるのですがすぐということではなくて、ワンクッション置きながら手続きを踏みながら協議を進めていく。その中で資料提示も考えていく。そのようなかたちで

この委員会は討議をさせていただきたいと思います。どうしてもこのデータは資料としては出ていますので、各学校現場でPTAの間で役員の間で、「こんなかんじになっているよ」ということを、今回参加いただいた学校代表のPTAの皆さんからはお話をいただきながら、まめに情報を集めご意見をまとめていくということ。これは十分に可能だと思いますのでそのような形で当面は進めさせていただきたいと思いますが〇〇委員いかがですか。

委員

はい。よろしい、いいです。

委員長

他の委員さんはいかがでしょうか。

全員

よろしいです。

委員長

事務局の方でまたそのあたりの精査を、あと出し方については協議させていただきたいと思ます。

事務局

はい。

委員長

それでは関連することあるいはほかのところでも構いませんが、委員の皆さんご意見をいただければと思います。

委員

データの話が出たときに、九戸村以外の3村も事務局が調査してとの話しをしましたけれど、おそらく全国的に一つの自治体の中で、一つの小学校の中で1村1校というところがあると思いますし、もちろん今現在進行形で統廃合に向けて検討を重ねているところもあると思いますが、もし資料として調査できるのであれば他の3村さん、九戸と比べるともっと児童数少ないところではあります。もっと規模的に大きいところで一つの小学校にしてやっているところがあるのか、それに向かっていった経緯。もし調べることができれば、九戸村にとってすごく参考になることがあると思いますので、可能であれば知りたいと思います。

委員長

ありがとうございます。ハシモトさんの方からご指摘がありました。野田、普代、田野畑、児童数から言えばやはり厳しい数ですから。九戸村は273名。この子どもたちの規模に匹敵するような自治体で、市はないと思いますから町村で1校統合しているようなケースがあればちよっ

と調べていただいて、その経緯をお願いできればと思いますけど、ちょっと負担が増えますけど可能であればぜひお願いしたいと思います。

事務局

はい。

委員長

岩手県内に限らずということになると思いますけども。同じような東北6県あたりであれば望ましいとは思いますが。そういう情報も必要だと思います。関連するところでも構いませんけども、またこうゆう資料を是非次回までに、あるいは次回といわず次次回とかその先。

上村委員

もしもですよ、統合に向かったの資料は集めやすいと思うのですが、全く逆の方向に動いているような教育を行っているような小さな村があれば、あえて小規模で校舎を残しているとか、あえて絶対統合はしないのだとかたくなに、そのうえで成果を上げているようなところがもしあればということで、反対もやっぱり見てみたいなという希望がありますので、もし可能であればお願いいたします。

委員長

ということで委員さんから新しい資料要望がございました。統合でなくてあえて小規模を維持しつつやりくりをしているような自治体の取り組みがあればということで、なかなか厳しいケースだなと思いますけどもそうゆう部分での情報があればということで、事務局の方可能な範囲ということになるかと思えますけども、一つよろしくお願いいたします。

事務局

はい。

委員

今話を聞いていて長興寺小学校の前副校長先生の小学校、今、川井村だったと思いますが。

(宮古市に合併になりましたが、旧川井村の門真地区、広い地区なのですが、児童数が2人。)

委員

この前発表会に来ていただいてすこし話をしましたが、「発表会やりましたか」と聞いたら、「やってませんって」。2人しかいないから発表会も運動会もないとのこと。「他の学校と一緒にやらないのですか」と聞いたら「やっていないですよ」と。交流は行っているとのこと。

また、その二人が兄弟で、二人のおじいちゃんおばあちゃんが合併することに反対だとの話を聞いたのですが。

子ども達は親からとか大人から与えられたことしか活動する場がないと思います。だから最初、統合ありきの考えだと駄目なのかもしれないけど、5ページにあるように35年には、小学校に



入るのが5人しか生まれてないです。そこを考えたときにもう少し先に動いた方がいいのではとの考えがあります。

委員長

ご意見ということでありがとうございます。平成35年入学予定の子どもは5人というのは、非常に厳しい数字になっていますのでそういうところを含めればいいたらうと思いますが、今回の委員会の方々もそういうことを念頭に置いていただきながら、今後進めさせていただきたいと思いますので、いずれ答申は来年度の8月です。一年ですからわりと短いですが、それを念頭に置きながら一定程度の結論は出すかたちになるとおもいます。ご意見ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委員

例えば久慈市とかは児童数4名のところもあり、他にも少ない市町村もある。そのような市町村は現在、九戸と同じ話し合いをしているのかどうか。もししているのであればどのような話をしているのかとか、資料でもないが連携を取りながらでも運んだらいいのかなと思います。

委員長

ありがとうございます。久慈市の13ページですね。確かに15校の小学校でも規模的にいうとかなり厳しい状況の学校が見られますので。近隣の自治体の状況にはなりますけども、統廃合等々どのような状況に学校があるのか、もし可能であればということですが、事務局の方いかがでしょうか。

委員長

参考程度でなにかあがりましたらば、近隣の地域で同じような状況を抱えているようであれば。

事務局

はい。

委員長

すみません。お願いします。

教育長

私の方からいいですか。

委員長

はい。

教育長

現段階で期日については詳しいことはよくわからないのですが、何カ月か前の新聞には小規模

校学校には教育委員会として学校のPTAと懇談会を重ねていると。ある一定の方向性は見出せたような感じで久慈市では書いていた。その場合には久慈市さんでは学校同士ではなくて、久慈市としての小規模校になったとき、どの程度小規模になったとき話し合いをするのか。その基準をどうするか書いていると思います。もうひとつの情報は一戸町さんが鳥越小学校、16名になっているわけですが、一戸町さんは平成の半ばのところで完全複式20人学級、とかある程度基準をつくって、そうなった場合には統合も地域と一緒に考えていきたいと思いますということで進めているようです。鳥越小学校については来年度統合の方向で現在進んでいるみたいですが。確実な情報については調べて次回に報告させていただきたいとおもいます。

委員長

ありがとうございます。今教育長さんからお話がありましたが、久慈の状況それから一戸町の状況というものもありましたが、くわしい資料提示は次回に事務局の方から出していただければと思います。事務局の方お願いします。

事務局

はい。

委員長

他にはいかがでしょうか。

委員

もしも可能なら次は会議の少し前に資料を事前に見せていただけたらありがたいなと思います。

委員長

それは各委員の皆さんが思われることだと思います。この場でいきなり資料を見て考え、判断し、ものを言えと言われてもなかなか厳しいものもあると思いますので、これは事務局への要望ということになりますけども、せめて開催前の週あたりには各委員の皆さんのお手元に届くようなかたちで資料等々お願い出来ればと思います。よろしくお願いします。その他にいかがでしょうか。何かあればご意見ということでも結構かなと思います。

委員

余談な部分になると思うのですが、特に資料提供とかは要望しないですけども、データの数値的になってお話があったのですが、実際に統廃合を経験した今という旧宇堂口小学校の当時在籍していた方がちょうど高校生くらいかなと思うのですが、その子供たちが実際に合併したときにどうゆう気持ちだったのか聞いてみたいと思うのですが、特にこれは参考資料ということではなくて余談な部分でどうゆう、してよかったのか、逆にしてなにか良くなかったことがあったのかの声も聞いてみたいという思いはあります。

委員長

なるほど確かにそうですね。子供たちが当時どのような事を感じていたのかっていうのも参考になりうる部分はありますよね。可能になるかどうかの部分はありますよね。

事務局

情報収集してみて可能であれば。

委員長

可能な範囲でということによろしいですね。

委員長

済みませんが、事務局の方ちょっともし情報が集まるようであればということをお願いしたいと思います。他にはいかがでしょうか。

委員

もし分かる方がいらっしゃったら10年前に3校にする計画で進めたって話を先ほど聞いたのですが、具体的にはどのような統廃合で、どことどこっていうふうな計画だったのか、もしご存知の方がいたら教えて。

委員長

〇〇委員さんその時関わっておられた。

委員

私がちょうど村P連の会長でしたので、教育委員会と校長先生とかと会議をしました。戸田小学校、伊保内小学校、江刺家小学校の3校に統合して、将来さらに子供が減るのでその後は1校にするという流れだろうということでした。やはりさまざまな検討がされ、その後に村が提示した統合プランとか宇堂口、戸田、山根を一校にして伊保内は伊保内だけで、長興寺と江刺家を一つにするというような話の提案をしたら、当時の山根小学校のPTAは統合賛成だったのですが、その案が出たとたんに全員が反対に回って、そこから3校の案が立ち消えになったと記憶しています。ただ詳細等はデータ等がないのでわからないのですが。その結果、平成20年の戸田小学校と宇堂口だけが親の方からお願いが来てっていう先ほどの説明につながってくるのだと思います。会議の中だけのやり取りなので記憶でしか分かりませんが。

委員長

次回の資料でもある程度出るかもしれませんが、大きな部分としては委員さんがお話したということによろしいですか。

【閉会】

委員長

他にはいかがでしょうか。ここで一応時間を切りたいと思います。それではご協力ありがとうございます。

ございました。それでは最初の式次第に戻る形になりますけども、6番の報告協議の3、協議までを以上で終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。